

第40回 タオルを贈る運動

タオル・メッセージの回収期間

2026年
1月3回～4回
1月12日(月)～23日(金)

注文用紙といっしょに通い箱に入れるか
配達担当に直接お渡しください。



私たちが飲む
牛乳づくりを応援

酪農家に タオルを 届けよう!



『こんせん72牛乳』の生産者
(北海道)



『いわて奥中山高原の低温殺菌牛乳』の
生産者(岩手県)



『酪農家の低脂肪牛乳』の生産者
(埼玉県)



『酪農家の牛乳』の生産者
(茨城県)

みなさんからの
タオルとメッセージを
お待ちしております!

こんな「未使用タオル」をお願いします

色

白がベスト

牛の乳房などをふいているときに
出血などがわかるため

色柄物でもOK

作業用具などの清掃にも使うため

大きさ

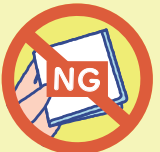
フェイスタオルが
ベスト

バスタオル・
ボディタオルでもOK

未使用

のし紙や袋は
そのままOK

未使用だと
すぐにわかるため



ハンドタオル

小さすぎるため



てぬぐい

うすいため



使用済み

洗濯済みでも
ご遠慮ください

未使用タオルが
ない方でも
参加できます

184594 1口(1枚) 130円

注文用紙またはインターネット注文で上の6ケタ
番号と口数を記入すると、口数に応じた枚数の新
しいタオルをパルシステムが代わりにお届けします。

組合員の声から
始まったカンパ方式



受付期間

1月3回～4回

1月12日(月)～23日(金)

第40回 タオルを贈る運動

第1回から贈ったタオルは
のべ **280** 万枚

「“ほんもの”の牛乳が欲しい」
組合員の声から始まった取り組み。

1970年代、日本では成分調整牛乳や加工乳が多く、成分無調整の牛乳を手に入れるのはむずかしい時代でした。「生乳の風味に近い“ほんもの”の牛乳が飲みたい」——組合員の思いから始まった、牛乳づくり。そのために必要な「菌数の少ない生乳」を求めてたどり着いたのが、北海道内でもトップクラスの乳質を誇る「根釧（根室・釧路）地区」でした。紆余曲折を経て、1981年に初代の『こんせん牛乳』が誕生。このときはまだ国内で主流のUHT（超高温殺菌）製法の牛乳でした。

『こんせん72牛乳』は
タオルがあったから生まれました。

より「生乳の風味に近い牛乳」をめざし、何度も産地を訪れた組合員。そこで牛の乳房をタオルでふき、清潔にすることで菌数の少ない生乳がつくられていると知ります。そうして1985年に始まったのが「タオルを贈る運動」。この運動が生産者の心を動かし、1987年に72℃15秒間のHTST製法で作られる『こんせん72牛乳』が誕生しました。タオルを贈る運動は今回で40回を迎え、贈ったタオルはのべ約280万枚。昨年度はタオル96,188枚とメッセージ4,627通を産地に贈りました。



登場当時の
パッケージ



産地ではこんなふうに使っています



乳房をふいたり機械を洗ったり、
清潔にすることで生乳の菌数を抑えます。



産まれた子牛の
からだをふくときにも。



洗って繰り返し使い、
約1カ月で交換。

4つの産地に
届けます



※『いわて奥中山高原の低温殺菌牛乳』は休止中ですが、
今も毎日生産を続ける酪農家のみなさんへタオルと
メッセージをお届けします。

タオルを贈る方も
カンパの方も

メッセージをお待ちしています

インターネットから
メッセージを贈る場合は



1 メッセージを贈る牛乳をひとつ 〇(マル)で囲んでください。

※原本を産地に贈るため、ふたつ以上〇を付けないでください。
複数産地にメッセージを贈る場合は本チラシをコピーするか、
インターネットで投稿してください。



2 所属センター名を記入し、 本用紙とタオルをいっしょに 通い箱に入れて提出してください。

ご利用の生協名 【 パルシステム 】

センター名 【 センター 】

生産者へ 【 】 枚のタオルを贈ります

3 生産者に届けますので、メッセージ や イラスト をどうぞ！ 切り取らず、通い箱に入れてください。

※住所やお名前など個人情報を記入しないでください。